

血液病レジデントマニュアル 第3版

神田善伸(著)

岡山大大学院教授・血液・腫瘍・呼吸器・アレルギー内科

前田嘉信

便利な図表が充実.

重要なポイントだけを集約したマニュアル

この『血液病レジデントマニュアル』はすごい。

まず本書の特徴であり、また最も評価したい点として、図表が素晴らしい。診断基準はどうか、どういう鑑別診断を考えるべきか、どういう治療をすべきか、日常診療において必要かつ十分に、そしてわかりやすく記載されている。巻末には各抗がん剤の注意事項、薬剤投与量の調節、有害事象グレードが添付されている。これほど便利な図表が、これほどの充実しているマニュアルは他に知らない。素晴らしい、の一言である。

本書の次の特徴は、現場に徹している点であろう。患者さんを目の前にして、どのように治療をしたらいいか、その具体的な方法が丁寧に記載されている。何mgを何日間、そして重要かつ見落としがちなピットフォールが注意書きされており、これがまた大変に役に立つ。標準的な治療法のみならず、トラブルシューティングも捕捉されており、現場の医師にとって非常に頼もしい。

本書は、レジデントマニュアルであるが、レジデントの範疇を超え、血液内科医、血液専門医をめざす先生にも幅広く役立つ内容となっている。図表の合間を埋める文章には、最新の疾患概念と治療法のエビデンスがちりばめられ、血液専門医でも勉強になり、またレジデントには血液学の奥深さと魅力の一端が垣間見えるだろう。最重要なポイントだけを集約しているからこそ、つい隣の

ページにも目が向き、未知なるものへの興味を広げるきっかけになる。読むものを自然に広大な血液の世界へ導くであろう。

医師は患者さんを治すのが仕事であるが、同時に社会の構成員であり、その在り方に責任を負うことになる。患者さんにどのような経済的負担をかける治療であるか、また、高額な薬剤を使用することがわが国の診療報酬制度を持続不可能にしないか、医師は考える必要がある。本書には薬価が記載されていたり、治療方針について経済的な観点での推奨、警鐘が盛り込まれていて著者の思いが垣間見られる。

最後に、インターネットで簡単に知りたい情報が手に入る時代となったが、情報にアクセスできると、知識として実践することは別である。インターネット時代にあっても本書をポケットに入れて、診療の合間にペラペラと紙をめくり自分のものにする。本書は、効率的な情報源としてだけでなく、血液診療上のベースとなる知識を身につける意味でも最適であると、強く推薦する。



●B6変型/頁504/2019年
定価：本体4,200円＋税
[ISBN978-4-260-03804-1]
医学書院 刊